事業名称	家島フォトクエスト
団体名・代表者	家島観光まちづくり協議会 会長 岡部賀胤
協働の相手方	観光経済局 観光コンベンション室
目的	瀬戸内海に注目が集まっている今、 姫路城だけではなく姫路市には家島諸島という魅力があることを周知する。四季折々の写真、個人的なお気に入りのスポットなどを発信・展示して「見る」という行為を通して、島内外の人たちがまたその瞬間に出会いたくなり、島に足を運ぶ機運を高める。島を冒険して家島を見つめ、写真を「撮る」という行為を通して、新しい発見や気づきを得られる機会となる。 そして、2025年の万博や瀬戸芸の旅の前後に家島諸島にも滞在してもらいたい。
内容	家島の観光スポットの発信、来島を促すためのInstagramによるデジタルフォトコンテスト、「家島百景」や「家島・今は昔・今は未来」写真展、使い捨てカメラを使用したワークショップ、「家島フォトクエスト」島民の写真展「ハレとケ」、全フォトコンテスト応募作品を含む全体の写真展をおこなった。
事業経過	アーティスト喜多直人が宮城県塩竈からフォトコンテストの準備やワークショップの打ち合わせや準備のため来島、8月20日まで滞在した。滞在期間：7月18日～8月20日 家島百景フォトコンテスト2024 投稿応募期間：8月1日～10月20日 アーティスト喜多直人が宮城県塩竈から家島に来島。滞在期間：9月18日～11月13日 ワークショップの準備や、9月28日と10月12日のワークショップの講師、 10月1日～15日に交流センターで行われた『家島・今は昔・今は未来』写真展の準備、設営、撤去、11月8日から真浦区民総合センターの全体の写真展の設営準備のため来島、11月13日まで滞在し、11月13日に宮城県塩竈に帰った。 『家島・今は昔・今は未来』写真展 10月1日～15日 家島フォトクエスト体験(ワークショップ)9月28日・10月12日 全体の写真展(島民の写真展「家島のハレとケ」)11月8日～1月31日
事業の効果	・事業の効果 『家島・今は昔・今は未来』写真展では、昔の白黒写真を見ながら懐かしい話や思い出話で盛り上がり、島民からの評判も良く、また展示してほしいとの声もありました。 『家島百景フォトコンテスト2024』と『家島フォトクエスト体験』は島外からの参加者が多く、企画をきっかけに初めて島を訪れた人がいたことが大きい収穫で、今まで足を運んでくれていた方もまた家島を体感する時間となったようです。撮影や写真を通して島の方との交流ができる仕組みが好評でした。 真浦区民総合センターで開催した島民による写真展『ハレとケ』をはじめ全体のコンテンツ写真作品展は、家島の四季折々、様々な時間帯の魅力ある景色や歴史を感じる写真をたくさんの観光客などに見てもらうことができた。 ●ワークショップ参加者9名(2回開催) ●フォトコンテスト参加者103点54名。 ●写真展来訪人数1回目、160人。 ●2回目来訪人数560人で合計720人の来訪者が写真展に訪れてくれた。 全体を通して、各コンテンツそれぞれに新たな家島ファンを呼び込む魅力と可能性を感じた。
今後の展望	歴史ある名所として知られている城山公園やさくら公園などでゆったりとした時間を過ごす提案ができると、家島での過ごし方の広がりを感じてもらえそう。 おもてなしをテーマに、お茶や甘酒、日本酒、太鼓や鳴り物で唄って踊っている時間を演出したい。 引き続き昔の写真を募集して、昔の写真と同じ景色を探して今の写真を撮影したい。 家島諸島だけではなく、船で繋がっていた飾磨町との連携も視野に入れていきたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

写真という媒体は、広く拡散する時にも効果的だし、今島を歩きながら想像をかきたてられ撮影した写真もまた家島の歴史の一枚となっていくと思う。100年くらい前の写真は、時代を飛び越えてそれぞれに感じる事ができ、ある種の没入感を体験できた気がする。各コンテンツ毎に続けていけると家島の各種団体とさらなる連携企画が生まれそう。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

万博や瀬戸内国際芸術祭の開催年に向け、参加者自身に魅力を発見してもらおうワークショップや、島民ならではの魅力を発信するフォトコンテスト、写真展により家島の魅力を市内外の方へ伝えるために効果的な取り組みであった。今後も家島のコンテンツも活用し、姫路市内への観光客誘致、滞在時間の増加へ取り組んでいきたい。